一、畑作　大豆、蕎麦、菜、蘿蔔、商売して御年貢の足にす。

文化六年の風土記より

中　里　村

府城の西に当り行程一里十二町、家数二十一軒、東西二町、南北四十間、四方田圃なり。東一町五十八間、北四町四十六間、共に真渡村の界に至る。其村は寅に当り四町二十間余、西一町八間、石原村の界に至る。其村まで一町二十間余、南二町五十五間、下荒井村の界に至る。其村まで九町。

○水利　思鑿堰、下荒井村の方より来り、田地の養水とし、真渡村の方に注ぐ。

○寺院　徳善院、境内東西十四間半、南北二十一間、年貢地、村中にあり、山号を延命山と云。大永五年（一五二五）の建立にて開基の僧を真観云。真言宗、府下大町一桂院の末寺なり。本尊観音、客殿に安ず。観音堂、境内にあり。

○褒善　忠義者　此村の農民宅右ヱ門母なり。寛延元年（一七四八）褒賞して米を与えり。忠義者治助享和元年（一八〇一）褒賞して米を与えり。

一八、石　原　村

1、村のおこり　村の名のおこりについては、寛文五年（一六六五）の書上げ帳にも、由来がわからないと書いてある。しかし古老は昔石仏と柳原という字名があって、この中の字をとって石原というようになったともいっている。柳原橋という名や、ようご河原が、或は柳原河原ではないかともいい、村の南三〇〇メートル程の所に石仏・廟所・中屋敷等の字名が残っていて、古くはこの辺に村があり、寺と墓地、土堤の形なども残っていた。下荒井村の宝寿院の所有になっていたそうであるから、全く来由のない伝承とも思えない。